

第3学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 明るい心で 中1ー(4) 明朗・誠実
資料名 「まどガラスとさかな」 (大阪書籍)

2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、うそやごまかしが人間関係を悪くすることや、正直な言動を取ることが大切だということは分かっている。しかし自分が過ちを犯してしまった場合、「怒られたくない」「悪く思われたくない」という、自己保身が先行し、正直な行動が取れないことがある。「これぐらいはいいや」とか「自分だけじゃない」という利己的な考えもよく見られる。

そこで、自分の行為を反省しながら行動できるようになるこの時期に本主題を取り上げる。資料「まどガラスとさかな」を通して、千一郎と周りの人の行動や気持ちを共感的に推しはかることから、過ちに対しては正直に謝る事の大切さと、正直に行動することが心の明るさをもたらすことを捉えさせる。このことは、道徳的実践力を育てる上にも意義深いと考える。

- 本主題は、「正直に明るい心で元気よく生活する」ことを主なねらいとしている。正直とは、自分に対して偽りのないことである。過ちを犯してそれを隠そうとするのは、人間の本能かもしれないが、うそをついて他者を欺くことはできても、自分を偽ることはできない。うそをつくると、心が暗くなってしまう。すなわち、正直に生きることは、自分の心を明るくするのである。そして、正直な人は周りの信頼も得て、友達の輪を広げていくことができる。しかし、現実には、その場を逃れるために、うそをついたりごまかしたり、葛藤することも多くある。

そこで、素直になれずにうそをついたりごまかしたりして、自分の心を暗くして生きるよりも、自分に正直に生きることが、心を明るく軽くし、周りの人に爽快な気持ちを与えることに気付かせることは大変意義深いと考える。

- 本資料は、窓ガラスを割って逃げた主人公千一郎が、張り紙を見て葛藤したあと、正直なお姉さんの行動に心を強く動かされ、ついに母親に正直に話し家の人に謝ったという話である。

本時指導にあたっては、葛藤する主人公千一郎の気持ちへの共感を深めていくことで、過ちに対しては正直に謝ることが大切であることと、正直に行動すると心が明るくなること、さらに周りも喜ぶことをとらえさせていきたい。導入では、事前アンケートを提示し、うそをついたりごまかしたりする気持ちを想起させ、本時のめあて「正直に行動する心を考えよう」へとつなぐ。展開1では、千一郎の心情に視点をあてて考えさせる。張り紙を見て葛藤する千一郎の心情に共感を深めさせるために、動作化を取り入れる。正直なお姉さんの行動を見て変化していく千一郎の心情を、役割演技と道徳ノートを通してより深く考えさせる。役割演技では、教師がお姉さんの役になり、あじを手を持ち謝る事で、千一郎役の児童が自分の考えを自然に出すことができるようにする。考えを出し合うときには、正直に謝ると心が明るくなり、周りの人も喜んでくれることに気付かせるような意図的指名を行う。各場面の挿絵にも注目させて発問を行う。展開2では、これまでの生活を振り返り、自分のなかにある正直な心を想起させ、価値を自覚できるようにする。終末では、教師の体験談を話すことによって、価値に対する意識の継続ができるようにする。

3 本時のねらい

ごまかしたい心を乗り越え、すっきりさわやかに正直に生きようとする心情を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第3学年〇組教室において

- 5 準備 アンケート結果、 拡大挿絵、 張り紙、 道徳ノート、 言葉のカード、 効果音ボール、 あじの絵

6 展開

階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 アンケートの結果からうそをついたときを思い出し、本時のめあてを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 叱られたくないとき ○ 黙っていれば分からないと思ったとき ○ 悪く思われたくないとき <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 正直に行動するときの心を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題意識を持たせるために、アンケートの結果を提示する。 ○ 正直でありたいという願いを引き出すために、「うそをつこうと思っていつているのか」と問う。
展 開 1	<p>2 資料「まどガラスとさかな」を読んで、主人公千一郎の気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 窓ガラスをわって夢中で逃げる千一郎の気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ しまった。悪いことをした。 ○ 逃げないで、謝らなければ。 ○ 怒られるとこわいな。早く逃げよう。 <p>(2) 白い張り紙を見て、謝るかどうか葛藤する千一郎の気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 張り紙をした人はおこっている。 ○ いまさら謝っても、もっと怒られる。 ○ 謝りたいけど勇気がなくて謝れない。 <p>(3) あじに見つめられたように思っはとした千一郎の気持ちについて、主人公千一郎の役割演技を通して話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>あじに見つめられたように思っはとした千一郎は、どんな気持ちでしょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「しまった」と思いながらも逃げた千一郎の気持ちを共感的に理解させるために、言葉のカードを提示し内容を振り返らせる。 ○ ガチャンという音を聞かせ、そのときの千一郎の表情を一斉にさせたあと、話し合わせる。 ○ 言葉のカードを提示して、不安や心配が先に立ち、正直に謝ることができず逃げ出した主人公の行動を振り返らせ、葛藤の苦しみに追い込まれていく主人公の気持ちに共感させる。 ○ はり紙を見せることで千一郎の気持ちにより迫るようにさせる。 ○ お姉さんの行動を見たことをきっかけに変化する千一郎の心情に迫るために、お姉さんの正直な行動を言葉の短冊に表して提示する。更に教師がお姉さん役であじを持って謝り、千一郎役の児童が心情を話すという形で役割演技をさせる。
展 開 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ あじがにらんでいるようでこわい。 ○ お姉さんは正直に謝っていて、えらい。 ○ ぼくが窓ガラスを割ったのに、正直に謝っていない。このままでは心が重い。 ○ 勇気を出して正直に謝りに行こう。 <p>(4) 謝って、ボールを返してもらった千一郎の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正直に言えてよかった。すっきりした。 ○ よろこんでもらってほっとした ○ お母さんも喜んでくれた。 ○ これからは正直に言おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳ノートに書かせて話し合わせる。 ○ 「うそや偽りが心を暗くし、正直に行動することが明るい心を生む」という気持ちに到達させるために、意図的指名を行う。(心の重さ→正直) ○ 千一郎の気持ちに迫らせるために、ボールを手渡したあとに発言させる。 ○ 謝ってすっきりした千一郎の気持ちをとらえさせるために、さし絵のおじいさんの表情に着目させたり、お母さんの気持ちを考えるように問いかけたりする。
展 開 2	<p>3 自分の中にある正直な自分のよさを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ものを壊したとき ○ 忘れ物をしたとき ○ きまりを破ったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の経験を想起しやすいように、考えられる状況のカードを提示した後、道徳ノートに書かせて、発表させる。
終 末	<p>4 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正直に行動しようとする意識の継続を図るような、体験談を話す。